

第14回 ロビー音楽会



ヤン・ステーン Jan Steen (1626-76) ロンドン・ナショナル・ギャラリー
「宿屋の外でケールシュタット(九柱戯)をする人々」部分

演奏 : 九州交響楽団の仲間たち

日時 : 2011年3月17日(木)
午後6時30分開演

会場 : 前田病院外来ロビー

「 Yama ちゃんの

おしゃべりコンサート 3月 」

ヴィオラ奏者山下典道「Yama ちゃん」の司会進行でお届けする
室内楽のひとときを、どうぞお楽しみください。

〈演奏 九州交響楽団の仲間たち〉

Clarinet

タラス・テムチシン（九州交響楽団クラリネット首席奏者）

Viola

山下典道（九州交響楽団ヴィオラ奏者）

猿渡友美恵（九州交響楽団ヴィオラ奏者）

Piano

中川淳一（ピアニスト、エリザベト音楽大学非常勤講師）

< プログラム >

☆モーツァルト：ケーゲルシュタット

cl . va . pf

☆ドビュッシー：ラブソディ 1 番

cl . pf

☆モーツァルト：クラリネット協奏曲 1 楽章

cl . pf

☆フンメル：ヴィオラ・ファンタジー

va . pf

☆ヴェータン：カプリッチョ

va

☆アメイジング・グレイス

2va

☆翼をください

2va



医療法人慈善会 前田病院

〒848-0027 佐賀県伊万里市立花町 2742-1

TEL 0955-23-5101 FAX 0955-23-3315

URL:<http://www.maeda-imari.or.jp>

☆モーツァルト（1756～1791）

＜ケーゲルシュタット・トリオ Kegelstatt Trio ＞

「ピアノ、クラリネットとヴィオラのための三重奏曲 変ホ長調 K.498」

ボーリングの前身である「ケーゲルシュタット（九柱戯）」（表紙）に興じながら作曲したとの逸話があるが、決して遊びの合間に書かれたような音楽ではなく、あのアインシュタインは「モーツァルトの最高の創造物」と述べている。ピアノ、ヴィオラ、クラリネットという珍しい楽器構成で、モーツァルト（ヴィオラを演奏）、ピアノの弟子フランツィスカ・ジャカン、そして友人でウィーン宮廷楽団のクラリネットの名手アントン・シュタットラーという気のあった仲間うちで演奏されたものと思われる。親密さと幸福感に満ちたこの作品は、生まれて間もないクラリネットという楽器の可能性をほとんど全て出し尽くしている。モーツァルトのクラリネットのための作品は、シュタットラーのすぐれた演奏技法に刺激されて作曲したと言われる。

＜クラリネット協奏曲イ長調 K.622＞

モーツァルト最後の協奏曲であり、クラリネットのための唯一の協奏曲。友人アントン・シュタットラーのために 1791 年に作曲。K 番号が示すように、モーツァルト最晩年の作品（最後の K.626 はレクイエム）。明るさの中に澄み切った悟りの境地のような雰囲気も溢れている屈指の名曲。クラリネットの持つ魅力を十分に生かした曲で、クラリネット奏者にとって極めて重要なレパートリーのひとつ。

☆ヴェータン（1820～1881）

フランスで活躍したベルギー人のヴァイオリニスト・作曲家。13 歳からヨーロッパ各地で演奏し、シュポーアやシューマンとも交流。シューマンからは「小さなパガニーニ」と呼ばれ、ベルリオーズやパガニーニも、その超絶技巧には驚いたといわれる。

7 曲のヴァイオリン協奏曲をはじめ、ヴィオラやチェロのための美しい作品を遺した。

＜カプリッチョ 奇想曲＞

「無伴奏ヴィオラのためのカプリッチョ八短調 op. 55（遺作 Op. 9）」

「パガニーニへのオマージュ」の副題がついている。哀愁漂う切々とした旋律は、恋人への狂おしいほどの情念を表すようでもあり、また神への贖罪の祈りのようでもある。ヴィオラならではの豊かな響きが、とにかく美しい。

☆フンメル (1778~1837)

フンメルは現スロヴァキアのブラティスラヴァ生まれのピアニスト・作曲家。

8歳のとき、アウフ・デア・ヴィーデン劇場（魔笛や第九を初演）の音楽監督に就任した父ヨハネスに伴われてウィーンへ移り、モーツァルト家に住込んでピアノのレッスンを受けた。11歳からのヨーロッパ巡演では神童と喝采を浴び、その後、ウィーンでアルブレヒツベルガー、サリエリやハイドンに学び、またベートーヴェンとも交流があった。1804年にハイドンの推薦でエステルハーゼ家のコンサートマスターに就任し、ハイドン引退後は宮廷楽長に。1819年、ワイマール宮廷楽長となり、ゲーテとともに「知識人の巡礼地」、「芸術の街」と言われるワイマールの発展に貢献。

19世紀前半の大ピアニストと言えば、先ずはフンメルのことであり、若きシューベルト、メンデルスゾーン、ツェルニー、ショパン、シューマンらにも大きな影響を与えた。

<ヴィオラ・ファンタジー>

『ドン・ジョバンニ』による幻想曲 ト短調 op.94

フンメルの師モーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ』から、第2幕で騎士長の娘ドンナ・アンナの婚約者ドン・オッターヴィオが『恋人をなぐさめて』と歌うアリアを主題にして作られた曲。フンメルは即興演奏を得意としており、そのときどきに合わせた主題や有名オペラのアリアをもとに演奏したという。

☆ドビュッシー (1862~1918)

<ラブソディ1番>

パリ音楽院の課題曲として1910年に作曲され、友人のクラリネット奏者ミマールに献呈され初演。「夢見るようにゆるやかに」と始まり、その後はテンポや曲想が刻々と変化。後半は高度なテクニックを駆使した自由で繊細で幻想的な雰囲気や表情豊かに歌うという、ラブソディの名にふさわしい名曲。クラリネットの可能性を追及した傑作であり、クラリネット奏者のレパートリーとして最も重要な作品のひとつ。

☆ニュートン (1725~1807)

<アメイジング・グレイス>

18世紀、イギリスの奴隷貿易船の船長ジョン・ニュートンはあるとき嵐に遭遇。死に直面したニュートンは必死に神に祈り、奇跡的に助かった後、牧師となって<神の恵み>を伝える多くの讃美歌を残した。西部開拓時代から移民たちや黒人奴隷を中心としてアメリカで広く歌い継がれ、今や世界中に知られる旋律となった。